

<参考文献>

(日本語文献は著者の五十音順、外国語文献は発表年度順)

- 荒木雅実(1975)「「捷解新語」の並書法について」『国語研究』38
- 池上禎造(1953)「キリストン資料」『国語学』11
- 岩淵悦太郎(1934)「謡曲の謡ひ方に於ける入聲「ツ」に就いて」
『国語と国文学』11-5, 7, 9
- 梅田博之・梅田規子(1965)「朝鮮語の「濃音」の物理的性質」『言語研究』48
- 遠藤邦基(1989)『国語表現と音韻現象』新興社
- 大塚高信(1934)『コイヤード日本語文典』坂口書店
- 大友信一(1956)「『捷解新語』に見られる濁音表記」『言語研究』30 日本言語学会
- 大友信一(1957)「『捷解新語』による国語音の研究」『文化』11-4 東北大学文学部
- 奥村知子(1991)「ハ行子音の音価と表記——朝鮮資料『捷解新語』を中心に——」
『文献探求』27
文献探求の会(九州大学文学部国語学国文学研究室)
- 小倉進平(1928)「朝鮮語の toin-siot」『岡倉先生記念論文集』 研究社
- 小倉進平(1934)「朝鮮語と日本語」『国語科学講座』IV
- 小倉進平(1964)『増訂補注 朝鮮語学史』刀江書院
- 亀井 孝(1984)「捷解新語の注音法」『日本語のすがたとこころ-(一)音韻-』
吉川弘文館
- 河野六郎(1952)「『伊路波』の諺文表記に就いて」『国語国文』21-10
- 河野六郎(1994)「ハングルとその起源」『文字論』三省堂
- 小松英雄(1956)「日本字音における唇内入声韻尾の促音化と舌内入声音への合流過程」——中世博士家訓点資料からの跡付け——『国語学』25
- 小松英雄(1959)「舌内入声韻尾と促音との交渉」『言語と文芸』2
- 小松英雄(1971)『日本声調史論考』鳳間書房

- 小松英雄(1982)『日本語の音韻 日本語の世界7』中央公論社
- 新 裕美(1991)「『捷解新語』における漢語——改修態度を中心として——」
大友博士還暦記念論文集刊行会編『辞書・外国資料による日本語研究』和泉書院
- 杉戸清樹(1989)「原刊本『捷解新語』のエ段音節母音部への音注について」
『野村正良先生受章記念言語学論集』野村先生受章記念刊行会
- 杉戸清樹(1992)「『捷解新語』タ行オ段拗長音子音部への音注について」
『日本語論究2 古典日本語と辞書』和泉書店
- 趙 磨熙(2001)『朝鮮資料による日本語音声・音韻の研究』新日本語学研究叢書4
제이엔씨(J&C) ソウル
- 趙 來詰(2000)「『捷解新語』における並書表記について
——舌内入声音、促音の書記例を除いた並書を中心に——」
筑波大学 文芸・言語研究科 日本語学研究室『筑波日本語研究』
第五号
- 趙 來詰(2001)「『捷解新語』における対訳・音注の配置について」
筑波大学 文芸・言語研究科 日本語学研究室『筑波日本語研究』
第六号
- 趙 來詰(2002a)「『捷解新語』における音注配置の原理——日本語学習としての規範性の解明を中心に——」『日本語と日本文学』第35号
筑波大学国語国文学会
- 趙 來詰(2002b)「近世初期における舌内入声音の表記と音価——ローマ字表記と
ハングル表記を中心に——」『日本學報』第52輯 韓國日本学会
- 辻 星児(1975)「原刊『捷解新語』の朝鮮語について」国語国文44-2
- 辻 星児(1988)「戊辰版『改修捷解新語』の朝鮮語について
——その表記・音韻を中心に——」『岡山大学文学部紀要』10
『朝鮮語史における『捷解新語』』岡山大学文学部1997所収
- 辻 星児(1991)「重刊改修捷解新語に見られる区切り小点について」
朝鮮語史における『捷解新語』(1997b)所収

- 辻 星児(1997a)「『捷解新語』に見られる文法意識－対訳朝鮮語の配置を通して－」
『日本語と朝鮮語(下)』 国立国語研究所
- 辻 星児(1997b)『朝鮮語史における『捷解新語』』岡山大学文学部
- 高松政雄(1993)『日本漢字音論考』風間書房
- 築島 裕(1969)『平安時代語新論』東京大学出版会
- 築島 裕(1995)『日本漢字音史論輯』汲古書院
- 土井忠生(1933)「近古の国語」「国語科学講座・v・国語学史」明治書院
- 土井忠生訳(1955) J. ロドリゲス『日本大文典』(1604-8) 三省堂
- 土井忠生(1965)「アビラ・ヒロン 日本国記」補注『大航海時代叢書』X I
岩波書店
- 土井忠生(1982)「アビラ・ヒロン『日本王国記』の日本語」「吉利支丹論攷」
三省堂
- 中東靖恵(1998)「韓國語話者の英語音声と日本語音声
——聞き取り・発音調査の結果から——」音声研究2-1
- 沼本克明(1982)『平安鎌倉時代に於ける日本漢字音に就いての研究』武藏野書院
- 橋本進吉(1928)『文禄元年天草版 吉利支丹教義の研究』東洋文庫
『キリスト教義の研究』 岩波書店(1961) 所収
- 服部四郎(1944)「標準語とアクセント」「言語学の方法」(1960)所収
- 濱田 敦(1946)「促音沿革考」「国語・国文」14-10
- 濱田 敦(1949)「促音と撥音」「人文研究」1-1、2
- 濱田 敦(1952)「弘治五年朝鮮板『伊路波』諺文対音巧」「国語国文」21-10
- 濱田 敦(1955)「語末の促音」「国語国文」24-1
- 濱田 敦(1959)「倭語類解考」「国語国文」28-9
- 濱田 敦(1962)「外国資料」「国語国文」31-11
- 濱田 敦(1966a)「薩摩苗代川に伝えられた交隣須知について」「交隣須知」
- 濱田 敦(1966b)「交隣須知の言語 一二言語の相互交渉」「交隣須知」
- 濱田 敦(1967)「朝鮮資料」「異本隣語大方・交隣須知」
- 京都大学国語学国文学研究室

- 濱田 敦(1970)『朝鮮資料による日本語研究』岩波書店
- 林 史典(1974)「吳音のかな表記における舌内および喉内入声音のかきわけについて」『千葉大学教育学部研究紀要』23
- 林 史典(1980)「吳音系字音における舌内入声音のかな表記について」『国語学』122
- 林 史典(1982)「日本の漢字音」「日本の漢字 日本語の世界4」中央公論社
- 林 史典(1996)「古代の音韻・音韻史」「文字・表記」工藤浩・小林賢次他
『日本語要説』ひつじ書房
- 林 義雄(1997)「原刊本『捷解新語』におけるシク活用形容詞ウ音便形のゆれについて」専修国文61号
- 福居誠二(1998)「ローマ字による長音表記 特にオ列長音に注目して」
『聖和大学論集』第26号
- 福島邦道(1975)「ヴァチカン写本 Reg. Lat. 459の日本語表記」
『実践女子大学文学部紀要』17集
- 福島邦道(1979)『サントスの御作業』翻字・研究篇 勉誠社
- 福島邦道(1980)「「規範」の問題とキリスト教資料」『国語国文』49-4
- 福島邦道(1983)「音韻史との関わり」「続キリスト教資料と国語研究」笠間書院
- 福島邦道(1995)『続々キリスト教資料と国語研究』笠間書院
- 福永静哉(1997)『浄土真宗伝承唱読音概説』永田文昌堂
- 馬淵和夫(1980)『国語音韻論』笠間書院
- 森田 武(1955)「捷解新語の成立時期について」『国語国文』24-3
- 森田 武(1957)「捷解新語」「捷解新語解題篇」
京都大学文学部国語学国文学研究室(1973)所収
- 森田 武(1973)「捷解新語解題」「三本対照 捷解新語 釋文・索引・解題篇」
京都大学文学部国語学国文学研究室編
- 森田 武(1977)『岩波講座日本語5 音韻』岩波書店
- 森田 武(1980)『邦訳日葡辞書』補説 岩波書店
- 森田 武(1985)「日葡辞書の解説と利用」「室町時代語論攷」三省堂

- 森田 武(1993)『日葡辞書提要』清文堂出版
- 安田 章(1960)「重刊改修捷解新語」『捷解新語解題篇』
京都大学文学部国語学国文学研究室(1973)所収
- 安田 章(1963)「隣語大方解題」『隣語大方 本文・解題・訳文・索引』
- 安田 章(1964)『全一道人の研究』京都大学国文学会
- 安田 章(1966)「対訳」『国語国文』35-6
- 安田 章(1970)「ハ行音のこと」『奈良女子大学国文学会誌』
『朝鮮資料と中世国語』(1980)所収「ハ行音と朝鮮資料」
- 安田 章(1973)「重刊改修捷解新語解題」『三本對照 捷解新語 釋文・索引・解題
篇』京都大学文学部国語国文学研究室編
- 安田 章(1979)「『方言集訳』の日本語表記」『国語国文』48-1
- 安田 章(1980)『朝鮮資料と中世国語』笠間書院
- 安田 章(1987a)「捷解新語の改修本」『国語国文』56-3
- 安田 章(1987b)「改修捷解新語解題」『改修捷解新語 本文・國語索引・解題』
京都大学文学部國語学國文學研究室編
- 安田 章(1987)「改修捷解新語」『外国資料と中世国語』(1990)所収
- 安田 章(1991)「改修捷解新語 解題」『改修捷解新語』太學社 ソウル
- 柳田征司(1993)『室町時代語を通して見た 日本語音韻史』 武藏野書院

Seung-bog Cho(1967)『A PHONOLOGICAL STUDY OF EARLY MODERN
JAPANESE —— ON THE BASIS OF THE KOREAN
SOURCE-MATERIALS ——』 Volume I
Material, Historical Background, Methodology and
Sound Correspondences
ALMQVIST & WIKSELL, STOCKHOLM

Seung-bog Cho(1970)『A PHONOLOGICAL STUDY OF EARLY MODERN
JAPANESE —— ON THE BASIS OF THE KOREAN
SOURCE-MATERIALS ——』 Volume II

Analysis and Reconstruction of Early Modern Japanese
Phonology

ALMQVIST & WIKSELL, STOCKHOLM

- 金 重鎮(1986)『近代国語表記法研究』圓光大博士学位論文 ソウル
 池 春洙(1986)『国語表記史研究』慶熙大博士学位論文 ソウル
 宋 敏(1988)『前期近代国語 音韻論 研究』塔出版社 ソウル
 吳 貞蘭(1988)『硬音税國語史的研究』翰信文化社 ソウル
 李 基文(1990)『国語音韻史研究』塔出版社 ソウル
 丘 千石(ト・スヒ)(1995)『韓国語音韻史研究』塔出版社 ソウル

参考資料

京都大学文学部国語学国文学研究室編

- (1957)『捷解新語』京都大学国文学会
 - (1958)『倭語類解』京都大学国文学会
 - (1960)『重刊改修捷解新語』京都大学国文学会
 - (1963a)『捷解新語文釈』京都大学国文学会
 - (1963b)『隣語大方』京都大学国文学会
 - (1965)『弘治五年朝鮮板伊路波』京都大学国文学会
 - (1966)『交隣須知』京都大学国文学会
 - (1967・68)『異本隣語大方・交隣須知』京都大学国文学会
 - (1969)『異本隣語大方・交隣須知補』京都大学国文学会
 - (1972)『三本對照 捷解新語 本文篇』京都大学国文学会
 - (1973)『三本對照 捷解新語 釋文・索引・解題篇』京都大学国文学会
 - (1987)『改修捷解新語』京都大学国文学会
- 池田廣司・北原保雄 校注『大藏虎明本狂言集の研究』(1972)上中下巻、表現社
 (略称:虎明本)
- 『パリ本 日葡辭書』(1976) 勉誠社

土井忠生他編訳(1980)『邦訳日葡辭書』岩波書店

『原本 国語国文学叢林 蒙語類解 倭語類解 捷解新語』原本国語国文学叢林17

(1985)大提閣 ソウル

『方言類釋』(1985)弘文閣 ソウル

『原刊活字本 捷解新語』(1990)弘文閣 ソウル

『重刊捷解新語』(1990)弘文閣 ソウル

安田章、鄭光 共著(1991)『改修捷解新語』太學社 ソウル